

ルカの福音書 第1章 38節

「マリヤは言った。『ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。』」

みことばは汲んでも、汲んでも尽きない井戸のようなものだ。いや、井戸をはるかに越えて、枯れることのない永遠の泉だ。真理の水、湧き上がるみこころを飲む度に新鮮な味わいと、驚くばかりの潤いと豊かさをいただくことになる。その迫力は真理の水を飲む者のいのちを新たにし、生き方を変容させ、姿そのものを変えてゆく。

今日いただくみことばは前回と同じ個所となる。出会いの度にさらに深く、広く、高く、奥深く語りかけてくる。マリヤが御使いガブリエルにより受胎告知を受けたときの姿に再び注目する。そこで起こった父なる神の御業がある。乙女マリヤの応答の仕方と御業の接点がどこにあり、御業の成就がどのように起こったのか問う。

「私は主のはしためです。」「あなたのおことばどおりこの身になりますように。」自己主張ではない。いずれも御前にある自己認識であり、みこころのままにとの祈りである。いずれの言葉も、自己都合を捨て、徹底した主への全的自己開放宣言である。ここに、世の救い主が受胎され、ここから御子の誕生までの成長が起こった。